

\*\*\*\*\*

隔週刊「農業文化マガジン『電子耕』」 第 395 号

—環境・農業・食べ物など情報の交流誌—

2017.01.12 (木) 発行 山崎農業研究所&編集同人

<キーワード>

環境・農業・健康・食べ物などの情報提供、高齢者と若者、農村と都市の  
交流ミニコミ誌。山崎農業研究所&『電子耕』編集同人が編集・発行。

<http://www.yamazaki-i.org>

\*\*\*\*\*発行部数 977 部\*\*\*\*\*

□ 目 次 □-----

<巻頭言> 地球温暖化の日本農業への影響 塩谷哲夫

<お知らせ 1> 第 156 回定例研究会 (予告)

震災・水害と自治・地域住民及び水文化 (2 月 4 日)

<お知らせ 2> 山崎農業研究所所報『耕 No.139』発行されました

<お知らせ 3> 第 155 回定例 (現地) 研究会=玉川上水を巡る

<編集後記> 転換の時代を生きる

---

<巻頭言> 地球温暖化の日本農業への影響

---

新しい年を迎えて新鮮な気持ちで過ごしたい。しかし、グローバリズムがもたらした昨今の日本や世界の混乱を思い返すと、つい心配が先に立ってしまう。今年、間違いなく昨年 (あるいは昨昨年まで) の傾向を引き継いでいっそう深刻化するのではないかと思われるのは、地球の温暖化に伴う気象変動の勃発である。

世界の全人類が避けようもない気象災害で危険にさらされている「地球温暖化」に対して、従来は消極的であった温室効果ガス排出量 1 位である中国 (約 20%)、2 位のアメリカ (約 18%) も漸く本気になって、国際条約・パリ協定が締結された (11 月 19 日) \*。

ところが、日本 (排出量約 4%) は、企業利益や原発稼働にこだわって、TPP は強行採決までしたのに、政府は期限までに国会承認を得ようとしなかった (この件の承認は 11 月 8 日)。そのためにパリ協定第一回締約国会議にオブザーバーとしてしか参加できない羽目になった。

この一年の日本の気象状況を振り返ってみよう。「いまだかつて経験したこ

とのないような」(気象庁) 強力な台風や集中豪雨などに襲われた。すべてが地球温暖化のせいにはできないだろうが、少なからず、その影響を受けていることを否定できない。

「避けられない温暖化」に備えて、農林水産省は平成 19 年以来「地球温暖化対策総合戦略」を策定して対応している。普及指導員や行政関係者の参考資料として各地域の状況や対策を『影響調査レポート』としてホームページを通じて公開している。

平成 27 年度の各県からの報告数は 485 事例に上っている。水稻の白未熟粒の発生、ブドウやリンゴの日焼け、トマトの着果不良、乳牛の繁殖成績の低下等である。農林業こそ温暖化対策の要となる産業であり、その技術の在り方、また、農ある穏やかな暮らし方を再評価すべきではないかと思う。

農林水産技術会議はレポート (No.23、2007) で、(1)水田の中干、間断灌漑により、発生する温室効果ガス (メタン) は、米収量が変わらずに大幅に減少する、(2)複層林を含めた森林管理等によって、炭素の蓄積が維持?増大する—などを指摘し、経済発展重視・グローバル化の「高度成長型社会」が温暖化ガス排出量を増やし、一方、環境・経済調和・地域主義化の「地域共存型社会」が、最も高いガス発生抑制効果があると紹介している。

私が初めて衝撃をもって地球温暖化の危険性に気づかされたのは 1972 年のローマクラブによる『成長の限界』を通じてであった。以来半世紀が過ぎようとしている。対策の効果がすぐには期待できないが、一日も早く、“まともな社会”をとりもどし、次の世代に美しい地球の可能性を渡したいものである。

\*なお、(1)これにもトランプ政権は消極的な対応をしようとしていると報道されている。(2)近年のアフリカ、中東の紛争や越境難民の増加の背景には、気候変動がもたらした早魃や土壌劣化によって、農業や放牧による生活様式では地元で暮らしていけなくなっていること、また、農業大国による食料輸出などが背景にあると指摘されている。農業関係者として注目したい (アニエス・シナイ『世界』2015.11、小熊英二「朝日新聞」2015.11.17)。

塩谷哲夫

山崎農業研究所幹事

[yamazaki@yamazaki-i.org](mailto:yamazaki@yamazaki-i.org)

---

<お知らせ 1>

第 156 回定例研究会（予告）＝震災・水害と自治・地域住民及び水文化

---

次回（02/04）の定例研究会のテーマは「震災・水害と自治・地域住民及び水文化」です。近年、地震や風水害が頻発していますが、自然災害は単なる自然現象でなく、人間と自然と関係によってその被害の大きさが決まるといえます。ハード技術に偏重するのではなく、地域住民の自主的防災の考え方もふまえたソフト防災も重要ではないか。そして、そもそもの「水」と「土」の文化論的検討が必要ではないか。そんな観点からの研究会です。みなさまの参加をお待ちしております。

1、日時：2017年2月4日（土）13：15～17：00

2、研究会会場：NTC コンサルタンツ株式会社 会議室

東京都中野区本町1丁目32番2号ハーモニータワー20階

3、参加費：500円（資料代）

4、講演：13：20～17：00

(1)大熊 孝 氏（新潟大学名誉教授）

「技術にも自治がある——日本人の伝統的自然観と水防技術」

(2)大橋 欣治 氏（元農水省北陸農政局長）

『水と土の文化論』をめぐって」（仮題）

5、懇親会 参加費：4000円

※参加申し込み：参加希望者は下記へご連絡下さい。

TEL：080-2061-4227（益永携帯） e-Mail：[y.masunaga@ntc-c.co.jp](mailto:y.masunaga@ntc-c.co.jp)

---

<お知らせ 2> 山崎農業研究所所報『耕 No.139』発行されました

---

山崎農業研究所所報『耕 No.139』が発行されました。

ご希望の方には雑誌を頒布いたします。

[yamazaki@yamazaki-i.org](mailto:yamazaki@yamazaki-i.org)

までご連絡ください。

《土と太陽と》（巻頭言）

いまなぜベーシックインカムか

—これからの「百姓的」生き方を支える政策提言◎白崎一裕

[第 154 回定例研究会]

グローバルゼーションから「農本化」としてのローカリゼーションへ◎関 曠野

[第 42 回研究所総会・第 40 回山崎記念農業賞]

総会挨拶◎小泉浩郎

第 40 回山崎記念農業賞贈呈式（栃木県益子町・株式会社 川田農園）

選考委員報告◎渡邊 博

お祝いの言葉◎加藤敏之／松本 謙

受賞者挨拶◎川田 修

■総会記念フォーラム：

「こだわり」で結び合う農と食—農園と厨房をつなぐ川田農園の挑戦

I 解題：川田農園が教える食と流通◎小泉浩郎

II 我が国における有機農業の動向◎家常 高

III 栃木県の 6 次産業化振興と川田農園の特徴◎小林俊夫

IV 「農園」から「厨房」まで◎川田 修

参加者の声◎若林祥子／内田空美子／丸山紀之／堀 泰史

[特別対談]

川田農園の今と明日を語る◎松本 謙×小泉浩郎

〈連載〉“生きもの語り”の世界から(10)

なぜ日本人は、「天地自然」に惹かれるのか／宇根 豊

---

<お知らせ 3> 第 155 回定例（現地）研究会＝玉川上水を巡る

---

昨年、山崎農業研究所の安富六郎前所長が『武蔵野・江戸を潤した多摩川—多摩川・上水徒歩思考』を出版されたこともあり、農業土木との関係が深い武蔵野台地用水、江戸町生活支えた玉川上水を訪ねての現地研究を 10 月 29 日に開催しました。現地見学に先立ち、羽村郷土歴史館に隣接する市の集会場、「清流会館」で安富前所長から 1 時間ほど話題提供していただき、午後からマイクロバスに乗って、いくつかの地点を見学しました。

当日の行程は以下のとおりです

11：00～12：30 安富前所長の講演と意見交流：羽村市清流会館→  
12：40～13：10 羽村堰見学→13：10～13：30 羽用水（車窓）→  
14：30～14：50 府中用水堰（青柳）→中用水堰（青柳）→  
15：30～16：00 野火止用水分堰→16：40 千川上水分点（車窓）→  
17：00～17：10 三鷹～井の頭公園間の玉川上水（車窓）→  
公園間の玉川上水（車窓）→17：30～19：30 懇親会

安富六郎著『武蔵野・江戸を潤した多摩川——多摩川・上水徒歩思考』  
（農文協、199 ページ、定価 1700 円（税別））

<http://www.amazon.co.jp/dp/4540142631>

---

<編集後記> 転換の時代を生きる

---

年末、気の置けない仲間たちとささやかな忘年会を開いた。会話のなかで出たのが「時代精神」という言葉である。ずいぶんと固い話題のでの飲み会だなあと笑われるかもしれないが、哲学つながりの仲間なので当人たちにとってはごくごく自然な流れなのだ。

ああだこうだと話したものの、たぶん、いまを生きるわたしたちにとっては、いまの時代精神がなんなのかはわからないだろう...というオチとなった。

年明けの新聞を読むと「転換」という言葉を随所で目にした。その多くは、昨年の EU 離脱を決めたイギリスの国民投票や、トランプ旋風などをふまえてのものであるが、わたしの目をひいたのは、朝日新聞（2017 年 1 月 4 日）の巻頭解説記事として掲載された「経済成長は永遠なのか 『この 200 年、むしろ例外』」である。

<http://www.asahi.com/articles/ASJDY5DR2JDYULZU005.html>

「日本の現状はこの先も、とくに変化はない」と見る人は昨年は 54%で、9 年前より 22 ポイントも増えた。さらに身の回りで「楽しいことが多い」人が増え、「いやなことが多い」人は減った、という博報堂生活総合研究所の定点観測調査の数字をあげたうえで、同研究所所長の石寺修三氏の「人々の意識が定常社会を前向きに受け止めつつある変化がはっきり示されている。いわば『常温』

を楽しむ社会です」とのコメントが紹介されている。

わたしたちの社会は変わり続けることが是であると長らくされてきた。それが、変わらないことを受け入れそのことを楽しむ文化へと転換しつつあるという記事を目にして、これが時代精神というものなのだろうか、とも思った。変わる先が変わらない社会というのもおもしろいが、そもそも年頭の新聞記事、それも巻頭にこのような論調の記事がのること自体に時代の転換を感じさせられる。

でもたぶん、数十年後、数百年後の人たちからは、いまのわたしたちは違ったように見えるのだろう。それでもいいや、と思う。成長を前提にした社会の有り様は限界にきていることはさうとう確からしいし、一方で、成長しない時間のほうが歴史的には圧倒的に長いとなれば、成長しないことを前提にものごとを考えていくほうがよほど確かな道のように思えるのだ。

2017年01月12日

山崎農業研究所会員・田口 均

[yamazaki@yamazaki-i.org](mailto:yamazaki@yamazaki-i.org)

---

山崎農業研究所編・発行／農山漁村文化協会発売

『自給再考—グローバリゼーションの次は何か』

(発売：2008/11 定価：1,575円)

[http://shop.ruralnet.or.jp/b\\_no=01\\_4540082955/](http://shop.ruralnet.or.jp/b_no=01_4540082955/)

たくさんの方の書評・紹介記事をいただいています。感謝・感謝です。

---

◎辻信一さん（文化人類学者、ナマケモノ倶楽部世話人。明治学院大学教授）

グローバルの次は何？ ～卒業するゼミ生諸君へ

<http://www.sloth.gr.jp/tsuji/library/column64.html>

◎戒谷徹也さん（大地を守る会）

ブログ：大地を守る会のエビちゃん日記 “あんしんはしんどい”

「自給率」の前に、「自給」の意味を

<http://www.daichi.or.jp/blog/ebichan/2008/12/16/>

◎吉田太郎さん（長野県農業大学校教授、執筆者）

キューバ有機農業ブログ 自給再考の本が出ました

[http://pub.ne.jp/cubaorganic/?entry\\_id=1822182](http://pub.ne.jp/cubaorganic/?entry_id=1822182)

◎関良基さん（拓殖大学政経学部）

ブログ：代替案 書評：『自給再考ーグローバル化の次は何か』  
<http://blog.goo.ne.jp/reforestation/e/cb22650fa39384bdd22b61440fa81fa0>

◎大内正伸さん（イラストレーター・ライター）

ブログ：囲炉裏暖炉のある家 tortoise+lotus studio 「書評『自給再考』」  
<http://iroridanro.net/?p=15533>

◎ブログ：本に溺れたい グローバリゼーションの次は何か

<http://renqing.cocolog-nifty.com/bookjunkie/2009/01/post-841e.html>

◎森川辰夫さん

NPO 法人 農と人とくらし研究センター／資料情報

<http://www.rircl.jp/shiryo.htm>

◎日本農業新聞／書評

（2009/01/19 評者：日本農業新聞編集委員 山田優）

<http://yamazaki-i.org/>

（画面トップの「書評はこちらから」よりアクセス下さい）

◎小谷敏さん（大妻女子大学）

日本海新聞コラム「潮流」／「自給」の方へ（2009/01/31）

<http://blog.goo.ne.jp/binbin1956/e/c895f6619b30ba7725e264b4daa75219>

◎白崎一裕さん（(株) 共に生きるために）

月刊とちぎV ネットボランティア情報 vol.158／しみん文庫

<http://yamazaki-i.org/>

（画面トップの「書評はこちらから」よりアクセス下さい）

◎塩見直紀さん（半農半X研究所、執筆者）

ブログ：半農半Xという生き方～スローレボリューションでいこう！

立国集。

<http://plaza.rakuten.co.jp/simpleandmission/diary/200812270000/>

---

◎お願い「<読者の声>の投稿規定・メールの書き方」

---

1、件名（見出し）を必ず書いて下さい。「はじめまして」は省略して、言いたいことを具体的に。

2、氏名・ハンドルネームは、文末ではなく始めのほうに。

3、1回1テーマ、10行位に。

4、ホームページを持っている人は、文末にURLを。

5、JIS X0208 規格外の文字（機種依存文字）のチェックを。

[http://www.csj.jp/learned-society/check/new\\_but/jisx0208-sjis.html](http://www.csj.jp/learned-society/check/new_but/jisx0208-sjis.html)

インターネットで使えない丸数字や半角カタカナ、括弧入り略号などは文字化けの原因です。

-----  
次回 396 号の締め切りは 01 月 23 日、発行は 01 月 26 日の予定です。

---

<本誌記事の無断転載を禁じます>

\*\*\*\*\*

隔週刊「農業文化マガジン『電子耕』」 第 395 号

最新号・バックナンバーの閲覧

<http://archive.mag2.com/0000014872/index.html>

<http://nazuna.com/tom/denshico.html>

購読申し込み／解除案内

<http://www.yamazaki-i.org>

2017.01.12 (木) 発行 山崎農業研究所&編集同人

<mailto:yamazaki@yamazaki-i.org>

\*\*\*\*\* ここまで『電子耕』 \*\*\*\*\*